

地域団体の連携・協力による「(親子で) 110番の家を回ろう」

- 6月2日(土)、今年度第1回目の地域協議会の会議が開催された後、地域協議会を中心とした西地区の各種団体の協力・連携による「110番の家を回ろう」の取組が行われました。
- この取組は、主に低学年児童やその親を対象に、児童の安全確保を図るため、地区内の110番の家の場所確認・挨拶、空き家や危険箇所の点検を行うもので、今回で4回目となります。
- 特に新入生とその保護者にとっては、これから6年間通う学校の区内をよく知る機会であり、また、他の親子と一緒に歩くことを通して、交流も生まれる貴重な取組となっています。
- 参加した保護者からは、「ここに空き家があったなんて知らなかった。ここは危ないから、絶対近寄らないように。」「110番の家の方と話せてよかったね。何かあったら、大声を出して助けてもらおうね。」などの声が聞こえました。「いざ」というときに、今回の経験が必ず役に立つと思います。



地域協議会会長から挨拶



合言葉は「イカのおすし」



「マンションの新築工事が始まるとトラックが通るから気をつけて」



「古い空き家や雑木林は人目につかないから危ないよ」



「西小学校1年の〇〇です…これからも見守りお願いします」

【学校の声】

子どもたちは、身近なところにどんな危険があるのか改めて感じ取ったことでしょう。また、110番の家の方々と顔を合わせることで、安心して利用できるようになったと思います。地域協議会を核として、多くの団体の方々が協力して、子どもたちの命を守るために活動してくださっていることに感謝いたします。

【地域協議会の声】

現在は、共働き世代が多く、各家庭における防犯意識は低くなっている現状があります。

今回の取組を通して一人一人の防犯意識が高まることはもちろん、子どもも大人も地域における顔見知りを一人でも多く増やしてもらえれば嬉しいです。

今後も、子どもたちや学校を様々な視点から応援していきたいです。

【いいね!】

古い空き家や入り組んだ路地が多い中心部ならではの環境と昨今の子どもたちを取り巻く課題や現状とを結びつけ、解決の一助として、地域各種団体が主体となって、子どもたちをサポートしている好事例であり、今後、全市的に広めていくべき素晴らしい取組である。

